

# 生協から見た消費者意識の状況と 食品提供者としての生協の取り組み



2014年12月10日(水)

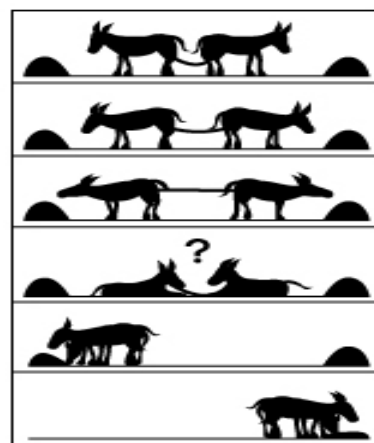
神奈川県生活協同組合連合会

丸山 善弘

## 神奈川県の生協

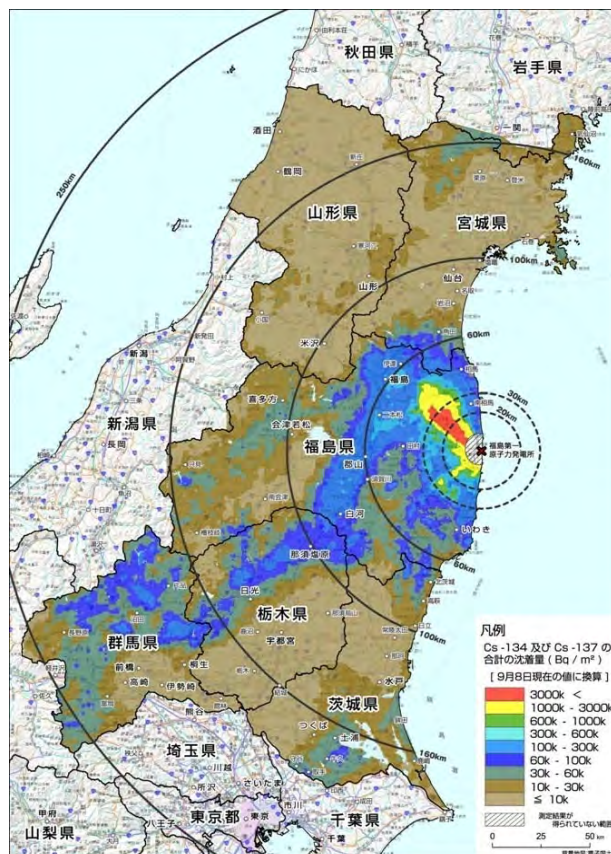
神奈川県生協連の会員

- ・地域生協: 13生協
- ・職域生協: 4生協
- ・医療生協: 4生協
- ・大学生協: 8生協
- ・共済生協: 1生協
- ・事業連合: 1生協
- ・労働者協同組合: 1生協



**地域生協+職域生協+医療生協で、神奈川県の総世帯数の  
約46%が参加する組織**

## この日本で起こったこと



2

## さまざまな形で

- 声援、義援金、支援物資、人員、医師、  
看護師、車両、線量計・・・
- 現地見舞い、視察
- 子ども保養プロジェクトの受け入れ
- 検査機器購入支援(食品放射能測定機、  
ホールボディカウンター等)
- そして、買って応援      ……今でも

3

# 福島の協同組合の取り組み

- ・義援金の贈呈
- ・被災者・組合員の緊急生活支援
- ・医師による放射線学習会、講演会
- ・線量計の貸出、家庭食品の検査
- ・農地の土壌分析、除染、農産物検査
- ・協同組合間協同による果実販売(福島応援隊)
- ・子ども保養プロジェクト
- ・
- ・

4

## 豊かな福島復興のために



5

# 福島県の農業と農協

## 農業

- ・農業産出額 2,450億円(全国11位)(2009年)
- ・米 4割 (全国4位)
- ・野菜 2割 (全国15位)
- ・畜産 2割 (全国13位)
- ・果実 1割 (全国8位) モモ、ナシ、リンゴ

## 農協

- ・連合会 5、総合農協 17、専門農協 132

6

# 食品の新基準値(2012/4変更)

## 【野菜類、穀類、肉・卵・魚・その他】

500Bq/kg → 一般食品100Bq/kg

## 【飲料水】

200Bq/kg → 10Bq/kg

## 【牛乳、乳製品】

200Bq/kg → 牛乳50Bq/kg

乳児用食品50Bq/kg

7

## 得られた知見

- ☆放射性物質はムラが多い→詳細な土壤汚染調査をして、きめ細かな対応が必要
- ☆粘土質の方がセシウム移行率が低い
- ☆カリウムや有機質が多い方が移行率が低い
- ☆里山の沢の水、水田の入り口と出口は線量が高い、落葉の分解
- ☆反転耕は効果がある
- ☆果実は根よりも樹皮から移行する → 皮剥ぎ

8

## 体系だった調査・検査体制の構築

- ◎ベラルーシ、ウクライナに学ぶ
- ◎得られた科学的知見の公開と集約
  - ・第1段階→土壤分析→全農地→汚染マップ
  - ・第2段階→予備検査→地域・品目ごと
  - ・第3段階→出荷前本検査→地域・品目ごと
  - ・第4段階→消費地検査→地域・品目ごと

9



## 2012年国際協同組合年を弾みに



10

## 福島県の協同組合運動の近年の歴史

- 1998年 ふくしま大豆の会
- 2007年 地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会(地産地消ふくしまネット、農協中央会、漁連、森連、生協連)
- 2008年 日本協同組合学会28回福島大会
- 2010年 福島大学協同組合ネットワーク研究所
- 2010年 シンポ「絆で創る!!ふくしまSTYLE—地産地消と協同組合の役割」

11

## 地産地消ふくしまネット

☆福島県の農協中央会、漁連、森連、生協連

☆目的：農林水産業の支援

食料自給率の向上

☆3つのプロジェクト：

- ① 「創る」(事業連携)
- ② 「守る」(食・産地・農の保全)
- ③ 「繋ぐ」(人材育成)

国際協同組合デーの取り組み

12

## 福島大学協同組合ネットワーク研究所

☆目的：「農商工観事業連携及び協同組合間協同による地域  
社会の持続的発展に関する研究

☆事業：

- ①農協、漁協、森林組合、生協の現状分析及び課題析出
- ②協同組合間協同の有効性、理論的意味づけと具体的な  
事業モデルとして農商工連携・観光クラスターとしての展  
開可能性の分析・検討
- ③協同組合間協同及び組織経営に関する教育研修プログ  
ラムの開発と実施

福島大学とJA福島中央会が連携協力協定を結び、研究所  
に研究委託

13

# 福島県実行委員会(2011/12/8)

☆42団体(現在44団体、農協、漁協、森組、  
生協、中協、信金、労金、労協を含む)

☆目的:

①認知度の向上、②復旧・復興、③原発に  
依存しない社会づくり

☆事業:

実行委員会主催事業と参加団体主催事業

14

## 実行委員会の主催事業

### ①行事開催

農林水産業復興大会、セタマルシェ、国際協同組  
合年フォーラム、おもひでぽろぽろ

### ②広報活動

ロゴマーク、パネル、機関誌紙、HP・・・  
「協同組合 オールふくしま」パンフ、講演会・・・  
国内・世界の協同組合への脱原発アピール

### ③協同組合の強化(中長期的課題)

福島大に寄付講座を、ローカルセンター

15



## めざすもの

☆風評被害の克服

☆協同組合は理念を共有する会員組織。

農協・漁協は生産者、生協は消費者を組織している。協同組合は生産－流通－消費を組織できる。

☆体系だった土壌調査・検査体制を組み込んだ農産物の生産－流通体制の構築

☆生産者と消費者の共同調査による情報の共有

16

## 消費者の権利と責任①

### ◆消費者の権利

- ・生活の基本的ニーズが保証される権利
- ・安全への権利
- ・情報を与えられる権利
- ・選択をする権利
- ・意見を聴かれる権利
- ・補償を受ける権利
- ・消費者教育を受ける権利
- ・安全な環境の中で働き生活する権利

17

## 消費者の権利と責任②

### ◆消費者の責任

- ・批判的意識を持つ責任
- ・主張し行動する責任
- ・社会的弱者への配慮責任
- ・環境への配慮責任
- ・連帯する責任

18

## 消費者基本法 (2004年)

(基本理念)

**第二条** 消費者の利益の擁護及び増進に関する総合的な施策（以下「消費者政策」という。）の推進は、国民の消費生活における基本的な需要が満たされ、その健全な生活環境が確保される中で、消費者の安全が確保され、商品及び役務について消費者の自主的かつ合理的な選択の機会が確保され、消費者に対し必要な情報及び教育の機会が提供され、消費者の意見が消費者政策に反映され、並びに消費者に被害が生じた場合には適切かつ迅速に救済されることが消費者の権利であることを尊重するとともに、消費者が自らの利益の擁護及び増進のため自主的かつ合理的に行動することができるよう消費者の自立を支援することを基本として行われなければならない。

19

## 不安と安心

**不安**

= 関心の高さ × 情報の曖昧さ



**安心**

= 正しい知識 × 適切な情報 × 信頼関係

20

## 正しくこわがる

**ものをこわがらな過ぎたい、こわがり過ぎたいするのはやさしいが、正しく怖がるのはなかなかむづかしい。我々は正しくこわがることができるであろうか？**

(寺田寅彦)

21

# 科学性

- 最新の科学的知見に基づく  
評価は変り、上書きされる
- ものの考え方自身が変わってきている  
「黒か白」と必ずしも一刀両断はできない
- 不安感に乗ずることが商売になる  
「怖い」と思わせて飯の種にする者に惑わされない  
2年に一度はベストセラー本が出る
- リスクコミュニケーション 「**正しくこわがる**」
- しかし、「心配だ」という声は大切にす

22

# 生協の取り組む食の安全

- 食の安全、重視する3つの考え方  
食品安全(フードセーフティ)  
食品防衛(フード・ディフェンス)  
食料安全保障(フード・セキュリティ)
- プロセス管理  
生産から消費までの工程が確かな管理でつながるプロセス管理で品質と安全確保をめざす。

23

## 様々な場で(富士フィルム生協 伝・伝まつり)



24

### 安心してご利用いただくために(事例:ユーコープ①)

☆「商品を通して組合員のくらしと健康を守ること」を第一に、組合員一人ひとりのくらしに貢献することを最大の使命としてきた。より安心な食品の供給は組合員の願いであるとともに生産者の願い。

☆福島第一原発事故による放射能汚染の問題が長期化する中で、毎日安心してご利用して頂くために、継続的に必要な検査と情報提供を行う。また、未来の「食」を担う日本の農畜水産物の産地を応援する。

- ① 商品の放射能自主検査を実施しています。
- ② 家庭の食事に含まれる放射性物質の摂取量調査を行っています。
- ③ 放射性物質問題へのコープの考え方と対応について組合員の皆さんに安心していただくために、わかりやすい情報提供を進めます。
- ⑤ 政府に対して要請書を送りました。

25

## 安心してご利用いただくために(事例:ユーコープ②)

### ① 商品の放射能自主検査を実施しています

検査は国や地方自治体の幅広い検査結果を前提に、お届けする商品を再度検証する立場から行うもので、国や地方自治体が行う検査方法と同等の検査精度を確保。

[自主検査の主な対象商品](下記5項目を中心に自主検査)

- ・公的検査で暫定規制値や基準値を超過したことがある産地や、その周辺地域で生産された商品
- ・コープの産直、産地指定などの商品(米、味菜卵、はぐくみ鶏、茶美豚など)
- ・乳幼児が摂取する食品(子どもの摂取が多い食品、ベビー用の食品など)
- ・摂取量が多い食品(米、飲料水、牛乳、卵、野菜、肉など)
- ・社会的に関心が高い食品

2011年度～2013年度で合計6078品目の検査を行いました。

2014年10月に行った検査数は80品目、2014年度累計検査数は600品目です。

2011年度～2014年10月までの累計検査数は6,678品目になります。

26

## 安心してご利用いただくために(事例:ユーコープ③)

コープは2012年1月より、日本生協連と共同で、家庭の食事からの「放射性物質の摂取量調査」に取り組んできた。これは「実際の食事からどのくらい放射性物質を摂取しているのか分からない」という組合員の不安の声に応じた取り組み。

日本生協連より、全国18都県の組合員から提出された2日間の食事サンプルの調査結果が発表されている。

### 放射性物質の摂取量調査とは

2日間にわたる朝昼晩の食事計6食分と、間食や水をはじめとした飲料など、口に入れ摂取したすべての食品をとりまとめ、ゲルマニウム半導体核種分析装置で放射能分析を行う。



検査用に1食分多く用意した参加者宅の朝食。1食分ごとにすべてチャック付き袋へ入れて冷凍保存の上、2日分を梱包して検査センターへ発送。

27



## 安心してご利用いただくために(事例:ユーコープ④)

### ◎これまでの調査結果について

2013年度は全国18都県より435サンプルを調査。食事1kgあたりの放射性セシウムの量について435サンプル中428サンプルからは、検出限界以上の放射性セシウムは検出されず。不検出は全体の98.4%。1Bq/kg以上の検出が見られたのは福島県6サンプル、宮城県1サンプルの7サンプル(総サンプル中の検出割合1.6%)。

3年間で1,356サンプルを調査した結果、検出割合、検出最大値ともに計測を始めてから徐々に低くなっており、1Bq/kg以上検出する食事を継続的に摂取する可能性は極めて低いことがわかってきた。

### ◎調査の目的

- ・一般家庭の日々の食事に含まれる放射性物質の量について、生協組合員の関心が高く、その実態を科学的に調査すること。
- ・被災地を中心に広く生協組合員の協力を得て、実際の食事と使用した食材に関する情報や食事に対する意識を調査することで、実情を把握すること。
- ・調査結果や関連情報を広く消費者の皆様へ分かりやすく提供していくことで、現状を正しく理解するための一助とすること。

28

## 安心してご利用いただくために(事例:ユーコープ⑤)

実施時期:2011年11月14日～2012年4月13日

実施数:250件(内、福島県100件)(【表1】参照)

対象地域:岩手、宮城、福島、群馬、栃木、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川、新潟、長野、山梨、静岡、愛知、岐阜、三重、福岡の18都県

方法:各家庭の2日分の食事(6食分と間食)を1サンプルとして、すべて混合・均一化した後に測定

測定器:ゲルマニウム半導体検出器

検出限界:1Bq/kg

測定物質:セシウム134、セシウム137、ヨウ素131、カリウム40

検査機関:日本生協連、東海コープ事業連合、コープこうべ、コープ九州事業連合(エフコープ)の検査センター

【表1】参加世帯数と調査結果概要

	調査実施数	検出	測定結果(Bq/kg)
合計	250	11	検出せず～11.7
岩手県	10	0	検出せず
宮城県	11	1	検出せず～1.0
福島県	100	10	検出せず～11.7
群馬県	10	0	検出せず
栃木県	10	0	検出せず
茨城県	10	0	検出せず
埼玉県	10	0	検出せず
東京都	10	0	検出せず
千葉県	11	0	検出せず
神奈川県	10	0	検出せず
新潟県	9	0	検出せず
長野県	10	0	検出せず
山梨県	9	0	検出せず
静岡県	10	0	検出せず
愛知県	5	0	検出せず
岐阜県	2	0	検出せず
三重県	3	0	検出せず
福岡県	10	0	検出せず

※測定結果はセシウム134とセシウム137の合計  
(検出限界はそれぞれ1Bq/kg)

29

# 安心してご利用いただくために(事例:ユーコープ⑥)

## ◎食事1kgあたりの放射性セシウム・放射性ヨウ素の量について

250サンプル中239サンプルからは、検出限界以上の放射性セシウムは検出されず。不検出は全体の95.6%。

1Bq/kg以上の検出が見られたのは11件(【表1】参照)。

放射性ヨウ素の検出はなし。

## ◎1年間あたりの食事からの内部被ばく線量について(放射性セシウム)

今回放射性セシウムを検出した11家庭のサンプルと同じ食事を1年間食べ続けたと仮定すると、食事からの内部被ばく線量は、0.019mSv~0.136mSvと推定。\*これは、新基準値の根拠である「年間許容線量 1mSv」に対して1.9%~13.6%にあたる。(【表2】・【図1】参照)

\*セシウム137が検出され、セシウム134が検出限界未満の場合は、セシウム134が検出限界ぎりぎりの1Bq/kg含まれていたと仮定。放射性セシウムを検出した11サンプルの中央値は1.40Bq/kg(【表2】No.6参照)で、この食事について求めた1年間の内部被ばく線量は0.023mSv、「年間許容線量 1mSv」に対して2.3%。2日分の食事を測定した250サンプルの平均重量は3.72kg。仮に、「検出せず」の食事3.72kg中に検出限界(1Bq/kg)と同じ量の放射性セシウムが含まれていた場合、食事からの1年間あたりの内部被ばく線量は平均で0.022mSv。検出限界(1Bq/kg)の半量(0.5Bq/kg)の場合は0.011mSv。

## ◎放射性カリウムについて

原発事故に関係なく食品中に含まれる放射性カリウム(カリウム40)は、すべてのサンプルから検出された。結果は11~58Bq/kg(【図2】参照)。

(参考)厚生労働省薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会放射性物質対策部会が、2011年10月31日に公表した「食品摂取による被ばく量の推定結果」は、年間およそ0.1mSv。また、同年12月22日の同部会で食事からの放射性物質の1日摂取量推定結果が示され、放射性セシウムの摂取量(年間)は、福島0.0193mSv、宮城0.0178mSv、東京0.0026mSv。

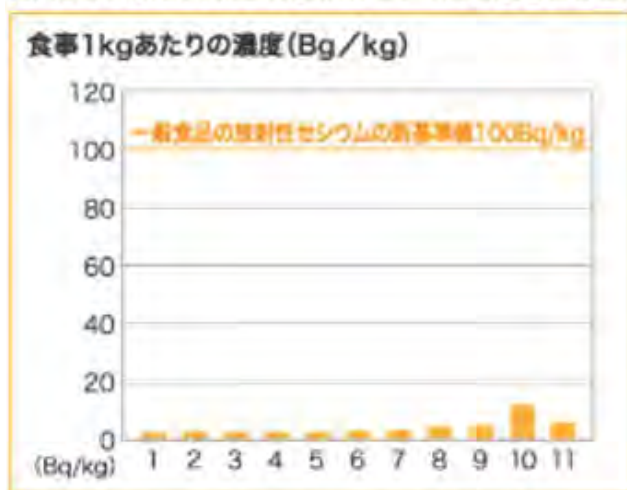
【表2】検出した11家庭の放射性セシウム摂取量と食事からの内部被ばく線量推計

検出した家庭	食事の量(kg/日)	放射性セシウム(Bq/kg)		内部被ばく線量(mSv/年)
		セシウム134	セシウム137	
1	1.71	検出せず	1.00	0.020
2	1.50	検出せず	1.20	0.019
3	1.97	検出せず	1.00	0.023
4	1.95	検出せず	1.10	0.024
5	2.00	検出せず	1.20	0.025
6	1.72	検出せず	1.40	0.023
7	1.43	1.20	1.70	0.023
8	1.78	1.60	2.20	0.038
9	1.70	2.00	2.40	0.043
10	0.86	5.00	6.70	0.057
11	4.39	2.40	3.00	0.136
4月からの年間許容線量				1.000

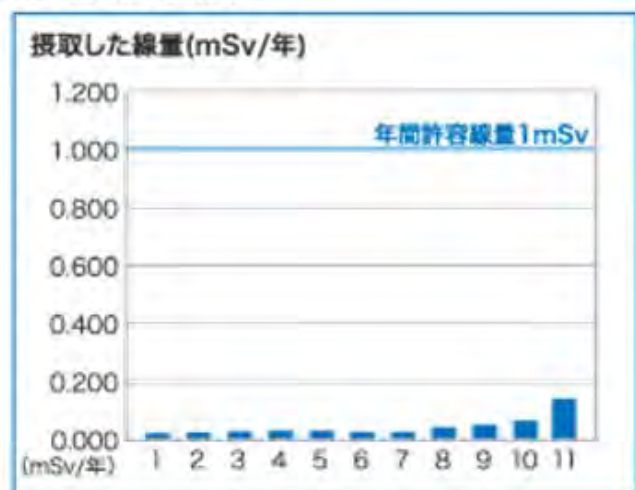
※「検出せず」のセシウム134を1 Bq/kgと仮定して、内部被ばく線量を求めました。

30

【図1】検出した11家庭の放射性セシウム摂取量と食事からの内部被ばく線量推計



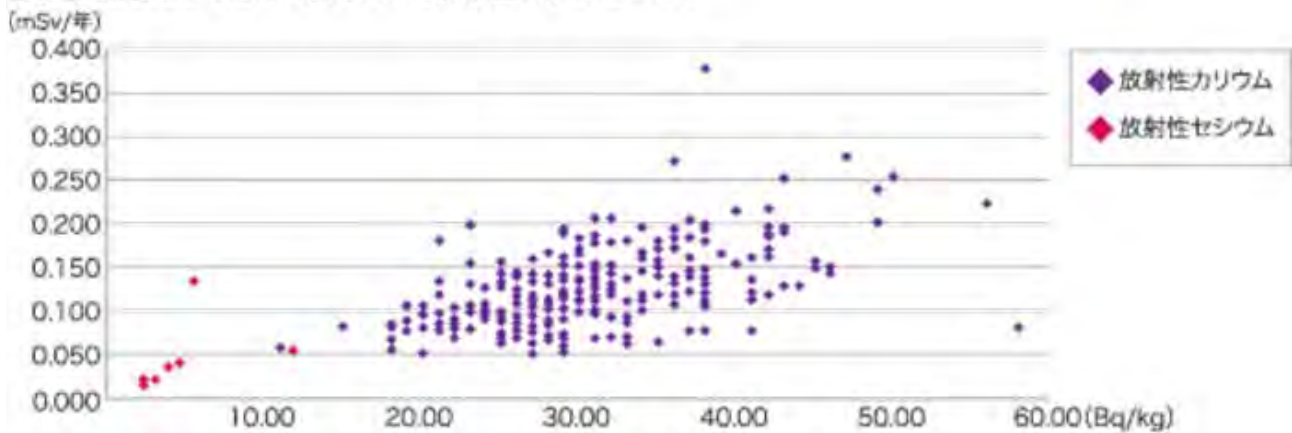
※4月に施行した一般食品の基準値「100Bq/kg」を太線で示しました。



※4月に施行した新基準値の根拠となる「年間許容線量 1mSv」を太線で示しました。

31

【図2】放射性セシウム、放射性カリウム摂取量の分布について



※250家庭の食事で検出された放射性セシウムと放射性カリウムの値をプロットしました。  
放射性物質の量を表す横軸のベクレルの値が大きいのでも、  
内部被ばく線量を表す縦軸のシーベルトの値が低いものがあります。食べる量の違いによるものです。

## ◎2013年度調査の概要

- ・調査期間：2013年6月29日～2014年2月18日
- ・実施数：388世帯435サンプル（内、福島県153世帯200サンプル）
- ・対象地域：岩手、宮城、福島、群馬、栃木、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川、新潟、長野、山梨、静岡、愛知、岐阜、三重、福岡の18都県
- ・方法：各家庭の2日分の食事（6食分と間食）を1サンプルとして、すべて混合し測定
- ・測定器：ゲルマニウム半導体検出器
- ・検出限界：1Bq/kg
- ・測定物質：セシウム134、セシウム137、カリウム40
- ・検査機関：日本生協連、コープ東北サンネット事業連合、コープネット事業連合、ユーコープ、東海コープ事業連合、コープこうべ、コープ九州事業連合（エフコープ）の検査センター
- ＊2011年度の調査から対象地域は同じ。東北、北関東を中心に実施数を2011年度250サンプル、2012年度671サンプル、2013年度435サンプル。
- ＊参考値としてヨウ素131も測定したが、すべて不検出。

## ◎参加された組合員の声（アンケートから）

- ・国内に出回っている食品が、ちゃんと国の基準をクリアしているものか再確認できる調査なので、これからも引き続きお願いします。
- ・日常、放射能に気をつけたくても目に見えるものではないので、今回のように、きちんと調査していただいだけ、結果を示していただけるのは非常にありがたいです。
- ・食べている物の結果がわかれば、一番の安心材料になります。調査に参加し、違う面で気づきがありました（食べすぎ、野菜不足など）。
- ・現在、妊娠中でもあり、今まで以上に放射性物質には気をつけております。と、言いながらも今まで参加した結果から大丈夫という自信もついております。
- ・今回の調査をきっかけに、家族で放射能について話し合う機会ができました。

## ◎2013 年度の調査結果の概要と、過去2 年間の調査との比較

### ① 食事1kg あたりの放射性セシウムの量について

- ・ 435 サンプル中428 サンプルからは、検出限界以上の放射性セシウムは検出されず。不検出は全体の98.4%。
- ・ 1Bq/kg 以上の検出が見られたのは7 サンプル。都県別には福島県6 サンプル、宮城県1 サンプル(表1)。
- ・ 2011 年度は、250 サンプル中11 サンプル(検出割合4.4%)、2012 年度は、671 サンプル中12サンプル(検出割合1.8%)から1Bq/kg 以上の検出が見られたが、2013 年度は、検出割合が1.6%に。検出サンプルの最大値は3.7Bq/kg、2011 年11.7Bq/kg、2012年度4.2Bq/kg。検出サンプルの平均値は1.8Bq/kg、2011 年度3.2Bq/kg、2012年度2.2Bq/kg。いずれも徐々に低くなっている(図1)。
- ・ 3 年間で1,356 サンプルを調査した結果、上記傾向となっており、1Bq/kg 以上検出する食事を継続して食べ続けている可能性は極めて低いことがわかってきた。

34

### ② 1 年間あたりの食事からの内部被ばく線量について(放射性セシウム)

- ・ 今回、放射性セシウムの最も高い検出をしたサンプルは3.7Bq/kg。仮にこの食事を1年間継続して食べ続けた場合、食事からの内部被ばく線量は、0.032mSvと推定。これは、2012 年4 月に施行された基準値の根拠である「年間許容線量 1mSv」に対して3.2%。  
同様の計算を、検出した各サンプルで行ったところ、内部被ばく線量は0.017mSv～0.051mSv(最大で年間許容線量の5.1%(図2))と推定※(表2)。
- ・ 2011 年度、2012 年度の調査で検出したサンプルからの内部被ばく線量は、それぞれ0.019mSv～0.136mSv、0.019mSv～0.053mSv。検出されたサンプルの線量を比較すると、2013年度調査の線量の最大値は、2012 年度と比較してほぼ同等であるが、平均値は、2011 年度0.039mSv、2012 年度0.034 mSv、2013 年度0.031 mSv と、徐々に低減。  
※ セシウム137 が検出され、セシウム134 が検出限界未満の場合は、セシウム134 が検出限界と同じ1Bq/kg 含まれていたと仮定して算出。

### ③ 放射性カリウムについて

原発事故に関係なく食品中に含まれる放射性カリウム(カリウム40)は、すべてのサンプルから検出された。結果は8.8～68 Bq/kg、1 年間の内部被ばく線量は0.034mSv0.39mSv。2011 年度は、11～58 Bq/kg、1 年間の内部被ばく線量0.051mSv～0.38mSv、2012 年度は、9.9～55 Bq/kg、1 年間の内部被ばく線量は0.037mSv～0.32mSv となっており、2013 年度も同程度の結果。

35

## 学習する(事例: パルシステム神奈川ゆめコープ①)

### ☆放射能について正しく知る

日時	講師	内容
2011年8月8日	野口邦和(日本大学歯学部専任講師)	体への影響など、くらしの視点で原発・放射能について
9月6日	河田昌東(四日市大学講師・チェルノブイリ救援・中部理事)	くらしの中での放射能防御など、放射線汚染下でくらす対策など
10月4日	田中優(未来バンク事業組合理事長)	環境、エネルギー政策の視点から、原発・放射能について
11月22日	パルシステム	パルシステムの放射能への取り組み
2012年11月2日 11月15日	映画と鎌仲ひとみ監督のトークショー	「内部被ばくを生き抜く」「ミツバチの羽音と地球の回転」上映と鎌仲ひとみ監督のトークショー
2014年1月7日	映画と鎌仲ひとみ監督・佐々木るりさん講演	「内部被ばくを生き抜く」上映、鎌仲ひとみ監督・佐々木るりさんの特別講演「福島から伝えたい思い」

36

## 伝える(事例: パルシステム神奈川ゆめコープ②)

### ☆署名

- ・「脱原発を実現し、自然エネルギー中心の社会を求める全国署名」17039筆  
(2012年)
- ・「安心して住める『福島』を取り戻すための署名」23,761筆  
(2012年)
- ・「原発事故子ども・被災者支援法」の幅広い早期実施と賠償の時効問題の抜本的な解決を求める請願署11,992筆  
(2013年)

### ☆カンパ

- ・被災産地・メーカーに対する支援や放射能の土壌検査および除染費用支援のための「震災復興基金」組織カンパ2,750万円  
(パルシステムグループ全体で3億円)
- ・「福島のこどもたち保養プログラム」に対して100万円の組織カンパ(パルシステム連合会経由)  
(2012年11月)
- ・「福島の子どもたち支援プログラム」組合員カンパ 588万1,100円(内ポイント340万6,900円分)  
(2013年11月～2014年2月)

37



## 伝える(事例:パルシステム神奈川ゆめコープ③)

### ☆意見書

- ・内閣府食品安全委員会「放射性物質の食品健康影響評価に関する審議結果(案)」へ意見書 (2011年)
- ・関西電力 大飯原子力発電所の再稼動に反対の要望書 (2012年)  
送り先:内閣総理大臣、内閣官房長官、経済産業大臣、環境大臣、福井県知事、関西広域連合首長
- ・「被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針(案)」に対する意見 (2013年)

### ☆報告活動

- ・ドイツとベラルーシの市民団体と原発事故被災者支援に関する情報交換があり、パルシステム神奈川ゆめコープでの保養プロジェクトの取組み報告 (2014年)

38

## 伝える(事例:パルシステム神奈川ゆめコープ④)

### ・放射能検査報告

「お届け情報」に「放射能に関するお知らせ」を掲載

『放射能関係のお知らせ』を配付 (希望者には毎週配付)



- ・2012年12月ホームページにて組合員を対象に「放射能に関するアンケート」実施  
・「内部被ばくを生き抜く」DVD上映会の呼びかけ(DVD貸し出し)



- ・2014年4月号 機関誌どりーむぺいじ 特集「伝えたい 福島は今」

39



## つながる(事例:パルシステム神奈川ゆめコープ④)

- ・保養プログラム  
神奈川で:2013年3月(横浜)、2013年8月(あしがら&おだわら)、2014年3月(横浜)、2014年8月(おだわら&あしがら)
- ・現地支援:
  - ・会津地方の仮設住宅での対面販売支援、雪かき支援など  
(2011年12月~2012年8月)
  - ・未就学児の保養企画(コヨット)の引率ボラアンティア (2012年2月~継続中)
- ・他団体との連携
  - ・さようなら原発1000万人アクション実行委員会
  - ・六ヶ所村再処理工場に反対し、放射能汚染を阻止する全国ネットワーク  
(阻止ネット)
- ・甲状腺検査
  - ・放射能と子どもの健康を考えるシンポジウム(後援)
  - ・子ども達を対象に甲状腺エコー検診の準備  
12月 映画「A2-B-C」上映会 & 牛山医師講演会開催

40

## 安心してご利用していただくために (事例:生活クラブ生協①)

「安全な食べものや生活用品を手に入れるために  
生産者とともに“素性のわかる”ものを作り、みんなで支えていこう」。  
そのためには、食べものや生活用品がどうやって  
作られているか、それを使うことで、人や環境にどんな影響が  
あるのかを、もっと知ることが大切です。  
生活から世の中を変えていくこの知識を、  
私たちは「生活知識」と呼んでいます。



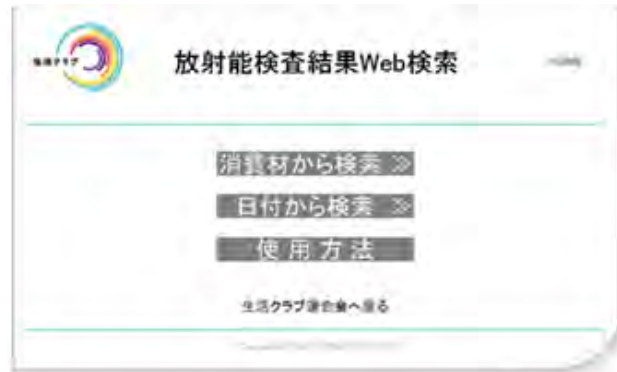
暮らしをよりよく変えていくヒントがそこにあることを表す目印です。

41

安心してご利用していただくために  
(事例:生活クラブ生協②)

## ☆放射能検査データベース検索

「消費材から」「日付から検索」



- ・消費材ごとにこれまでの検査結果のすべてが表示
- ・日付からの検索:直近の1週間の検査結果が表示
- ・食品ジャンルごとの国の暫定規制値も表示

42

安心してご利用していただくために  
(事例:ナチュラルコープ・ヨコハマ①)

## ☆2011年度

- ・学習会「今福島でおこっていることと私達」  
「放射能汚染の基礎と対策について」
- ・原発反対全国大集会への参加呼びかけ
- ・さようなら原発全国1000万人アクション・署名への取り組み
- ・放射能測定機械購入 LB-200
- ・放射能汚染食品ガイドラインの作成
- ・産直祭での東日本大震災・原発被害への支援物品販売
- ・東日本大震災義捐金の取り組み

43

安心してご利用していただくために  
(事例: ナチュラルコープ・ヨコハマ②)

## ☆2012年度

- ・組合員寄付による測定機械購入  
ジーテックGT-MARI-3NIL(検出限界4Bq/kg)
- ・神奈川県生協連・福島の子ども保養プロジェクト参加

## ☆2013年度

- ・総代会での「放射能問題に積極的に取り組んで欲しい」との意見を受け。「放射能対策委員会」を設置
- ・放射能自主基準値の見直し

44

安心してご利用していただくために  
(事例: ナチュラルコープ・ヨコハマ③)

## ☆2014年度

- ・放射能対策委員会  
「低線量内部被ばくへの対策」ミニ勉強会、一緒にワイワイおしゃべり会 & 身近な土壌を測ってみよう!
- ・放射能自主基準値の見直し
- ・理事会議決  
福島原発事故における大規模な放射能汚染と組合員の問題意識を受け止め、生協として組合員の生活を守るため、ナチュラルコープは原発に反対します。活動においては県連の要請行動・学習会への参加などで理事会としての知識の向上に取り組めます。また理事提案を理事会で検討し、体制的に可能なかぎり積極的に取り組めます。

45



全国の生協では、メーカーや生産者と協力し、消費者・組合員がより安心して商品を利用できるように取り組みをすすめています。放射性物質の自主検査では、2011年度～2013年度に全国各地の生協の施設で行った検査と、外部検査機関に委託して行った検査の総計は14万件超となります。

詳しくは、<http://jccu.coop/topics/radiation/>